



誠・力・光

平成30年7月17日

練馬区立北町中学校

学校だより 7月号

《それぞれの素晴らしさに気づこう》

校長 赤木 宏行

自分の欠点や失敗に気づき、「どうせ私は」と投げやりな気持ちになることが誰にでもあります。また、友達を一つの側面だけから見て、安易に「だめな人」とか「劣っている人」と評価していませんか。

金子みすず という人のこんな詩があります。

『私が両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、地面を早くは走れない。
私が体をゆすっても、きれいな音はでないけど、
あの鳴る鈴は私のように、たくさんの歌は知らないよ。
鈴と小鳥とそれから私、みんなちがって、みんないい。』

やさしい言葉の詩ですが、とても深い意味をもっていると思います。小鳥、鈴、私の違いとよさを認めているだけでなく、もっと深いところで、「小鳥が飛べること」への「すごいなあ」という尊敬の気持ちをもったのではないのでしょうか。そして、鈴にも小鳥にも私自身にも、他にはない素晴らしい力があることに気づき、うれしい気持ちがわいた思いを表現しているのだと思います。

それぞれに素晴らしい力があるのだということを忘れずに、人や物に接していきたいものです。この気持ちは、感謝や尊敬、思いやりを大切にする気持ちとなって、言葉遣いや礼儀の正しさに表れ、お互いに気持ちのよい生活の実現に、結びつくものです。

私たち人間はこの世に生まれ、育ち、そして生きていく中で、互いに協力し、支え合うことの大切さを実践してきました。そして集団生活に大切な相手の立場に立って考え、行動する「相手を尊重する態度」についても、一人一人の生き方に結びつけて数多く学んできました。

人には安心して生活でき、心が安まる場所がどうしても必要です。そのためには、常にその人の立場に立って考えたり、判断したり、行動することのできる人になってもらいたいと願っています。

その意味で今年の夏休みには、是非大勢の人々と接する機会を進んでもち、心温かな人々とのふれあいを体験してもらいたいと思います。



お世話になりました



スクールカウンセラーの神田先生は、11月に出産を迎えます。そのため、7月で本校を退職となりました。本校は2年4ヶ月勤務していただき、たくさんの方がお世話になりました。寂しいですが、元気な赤ちゃんが産まれるよう、みなさんも祈ってください。

2年4ヶ月という短い間ですが、大変お世話になりました。たくさん生徒の皆さんや保護者の皆さまとお話をさせていただきました。

不安なこと、心配なことは今後なくなることはないと思いますが、北町中学校の皆さんが、悩みながらも前に進んでいけるように、遠くから応援しています。本当にありがとうございました。



あぶら蟬（ぜみ）が何と鳴くか、ご存知ですか？

“ジリジリジリ”と煮えたぎった油のような鳴き声から「あぶら蟬」となりました。

“ミンミン”鳴くのは「みんなん蟬」、 “シャンシャン”鳴くのは「くま蟬」です。

地中で幼虫は3～17年（あぶら蟬は6年）過ごし、地上で成虫になって1週間の命。一週間、何も食わず樹液だけで命のかぎり鳴き続ける「蟬」は、日本では“儂い（はかない）命”、中国では“高潔なもの”とされています。

梅雨の中休みは蟬の初鳴きの季節。温暖化で初鳴きも年々早くなっているそうです。

先日、夜の8時半過ぎ、男の子を連れた親子が懐中電灯を持って地面を見ながら緑道を歩いていました。「この時期、セミの幼虫がたくさん歩いているんですよ。捕まえて、木にとめてあげてます。」踏まないように、そっと歩いている姿が微笑ましく、また素晴らしい体験をしていると感じました。

夏休みは、普段できないことをたくさん体験できる時期です。この親子のように、身近なところでも体験できることがあります。写真や画像も素敵ですが、実体験にまさるものではありません。

みなさまは「蟬の初鳴き」を聞かれましたか？

ちょっと、いい話！

運動会当日の朝、ある先生が元気のない様子です。「昨日、家に帰ったら、家の鍵が見当たらず、学校に置いてきたかなと思ったのですが、学校にもありません。今日は、鍵をかけずに来ています。」その話を聞いた先生たちは、驚きましたが何もできません。そうこうしているうちに、1本の電話がなりました。

「〇〇さんは、そちらの学校の職員ですか。実は、昨日▲▲のところで〇〇さんの鍵を拾いました。平和台が勤務地なので、届けにいきます。」

運動会の最中、拾ってくださった方が届けに来てくれました。

残酷な事件がよく報道される世の中ですが、こんな親切な方もいらっしゃることを是非たくさんの方に知っていただきたいと思います。親切にされると、次は自分が親切にしようと思います。この温かな輪が広がっていきますように。